

山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (大学生等コース) 留学結果報告書

学校の授業

私は、この留学期間の中で、5つの **ESL(English as Second Language)** の授業と、キャリア教育の科目、世界の宗教、社会学、少年犯罪、スペイン語の講義を履修しました。**ESL** のクラスは、自分の英語力の総合的な上昇に大きな力となったと思います。日本の大学のクラスに比べ、生徒に話をさせる機会がたくさんあり、様々な国から来たクラスメイトとの対話を通して、知らなかった国の文化、価値観、生活を知ることができました。また、同様に、自分も日本について考え相手に伝えることで、自らの文化背景などを見つめ返すことができました。キャリア教育の科目は、大学生の入門編という感じで、すでに3年間以上大学生として生活を送っている自分には退屈なものになるのではないかと、授業開始当初は思っていました。しかしながら、授業の中で、アルバイトの時間の有効な決め方やより授業の内容を早く長期記憶に移す方法、後回し症の対策、将来の展望の必要性などを学び、意外と知らなかったことや自分の考えが間違っていたことなどを知れました。アメリカの統計ではありますが科学的な観点から大学生活の心得を知ることができました。世界の宗教では主に、世界4地域での宗教の教義や歴史、現在、それぞれに抱える問題などについて学びました。日本では、宗教は社会生活の中で、それほど大きな影響力のあるものとして扱われてはいませんが、アメリカは、宗教的理由から本国での生活が脅かされている人を移民として受け入れている国でもため、宗教の1人の人生における影響力はとても大きなものであり、社会の中でもとても重要な役割を担っています。そのため、この授業の中で、知ることができた各宗教の違いや、歴史からくるセンシティブな問題について知れたことは、アメリカ生活の中でとても役に立ちました。またこのことは、様々な文化の人が増える今後の社会生活の中で生かすことができ、とても有意義なことだったと思っています。社会学は、私の専攻は総合政策学で、とても重要な科目であるにも関わらず、山梨県立大学には基礎科目として授業がなかったので、履修することに決めました。今まであいまいだった社会学の定義を知ることが、この授業の大きなテーマだったので、そのことを知ることができて、今後の自分の大学での学びをより深めることができると思います。少年犯罪は、アメリカ国内のことではありますが、少年たちを取り巻く社会、少年たちが犯罪に走ってしまう理由、更生させるためのセカンドチャンスは少年にはどのようなものが必要か、少年犯罪に関わる社会的議論など、日本にも共通するものが多くありました。少年たちを犯罪者にしないためには、抑制者となる存在が必要であり、それは保護者でも、友人でも、教員でも、警察官でも、誰でもなりうるので、社会全体で少年たちを犯罪者になる危険から守っていけるように孤立させないコミュニティが必要だと思いました。スペイン語を学習したのは、今後日本の教育現場で増えていくだろう日本語を母国語としない子供たちと少しでもコミュニケーションが取れればと感じたので履修しました。スペイン語圏である南米地域、スペイン語とよく似た言語のポルトガル語圏のブラジル語圏には多くの日系人が住んでいるので、そういった地域からくる子供たち、その保護者の方とのコミュニケーションのきっかけや、助けにできると思います。

・インターナショナルクラブ

インターナショナルクラブは、アメリカ人も参加できますが、留学生たちを中心に、異文化交流や世界の文化の紹介を目的としたクラブです。メインの活動は、デモイン市内の文化施設を訪問し留学生たちがデモインについて知ること、デモインの中でボランティアをおこないコミュニティに奉仕することです。年に **2** 回インターナショナルフェスティバルというイベントを行い、それぞれがそれぞれの民族衣装や料理を持ち寄り紹介しました。また年に **1** 度スキー旅行に行き親睦会を行いました。私はこのクラブで、副代表をやりました。私はインターナショナルクラブでのリーダーシップ体験を通して、チームの中にはそれぞれの個性を持つ人がいて、それを機能させるためにリーダーがいて、リーダーは機能させるためにそれぞれを知る努力を日頃から行うことが重要なことだと学びました。コミュニケーションはもちろん英語だったのですが、ほとんどの人が、英語を第 **2** 言語としているため意思疎通や全体の意思決定がとても大変でした。第 **1** 回目のインターナショナルフェスティバルの際に、イベントのパフォーマンス企画する会議の際なかなか意見が出ず、1 度ペディングすることになりました。どのようにすれば意見が多くで、生産的な会議ができるのか考えたときに、もしかすると、みんな緊張して意見が出せないのではないかと思いました。私も、留学当初のころは、みんなの前で間違えることや、うまく伝わらなかったらどうしようと考え、発言を遠慮してしまうことが多くあったことを思い出しました。そこで、同じ授業を履修している人を中心に、できるだけ普通の会話から何気なくイベントについての意見を 2 人きりや小グループで話しているときに聞いてみることにしました。そして、その会話の中にたくさんの方が面白い意見を持っていたり、ぜひイベントでやって欲しいと思うような特技を持っていることが分かりました。私は、その友人たちにぜひそのアイデアを会議で言って欲しいと伝え、発言を促しました。会議中にその友人が話している時に、他の人にわかりやすくするためにあえて質問したりすることで彼らの発言を助けました。すると、徐々に会議全体で発言が活発になり、とても生産的な会議ができるようになりました。このリーダーシップ体験を通して、**1** 人ひとりの意見を日頃から聞く心がけや、全体の理解を促すための質問を事前に考えておくことなどを普段の自分が所属するグループなどで実践し、将来のチーム活動を職場などでする際に、最大限に生かしていきたいです。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

・その他の活動

まず向上した英語力を生かし、資格試験に挑戦したいと考えています。また、**2,020**年の東京オリンピックでのボランティア活動にも参加して、この体験で得た力を、コミュニティーに還元していきたいと思います。学校以外でもたくさんの経験をさせていただきました。中でも、ジョブシャドウに参加することができたのはとても大きな経験でした。私は、デモイン・アートセンターで、約**1**週間のジョブシャドウを行いました。このジョブシャドウは小学**1**年生を対象としたワークショップで、子供たちの発想力、想像力を養うというのがメインのテーマでした。1つのことに対する集中力がとても短いので、どのように短いアクティビティーを集中力が切れないように連続させて、それぞれの関連性を持たせるか、どうやって子供たちにアートを学ばせるかなどに様々な工夫が見られ、とても勉強になりました。また、日本の学校では聞きなれない、クラスルームイングリッシュなどを学ぶことができました。そのほかには、デモイン内にある、比較的大きめの総合病院に1日だけ生かしてもらい、その病院の患者の治療に対する意思決定を聞く専門の先生にお話を聞くことができました。その中で、アメリカ社会が抱える、医療現場の問題や、保険、治療の自己決定などについて知ることができました。これは自分の将来分野には関わることではないかも知れませんが、移民や格差による社会問題などは、今後日本でも起こる可能性のある問題なので知ることができたのはプラスになりました。もう**1**つの職場見学は、少年裁判所に努める方に、少年裁判を見せていただきました。見学先を案内してくださった方のお話で、今子供たちがどのぐらい助けを必要としているか、子供が大人の保護を離れたらどれほど犯罪を犯す可能性があるのかなど知ることができました。この経験を生かし、積極的にコミュニティーイベントや子供たちの犯罪抑止活動などに参加し、子供に犯罪を犯させないコミュニティー形成に参加していきたいと思います。

.まとめ

私は、この留学期間に学校の授業や校内活動、また校外でも様々な活動に参加させて頂くことができました。その中のどの活動の中にも、発見や何かを深く考えるきっかけとなるようなことがありました。そのどれもが、将来必ず思い返して、役に立たせることができるものです。特に、将来的には教員になりたいと考えているのですが、その現場には、英語の技術や自分が実際に感じた異文化交流、多文化の価値観を受け入れる気持ちなどをつかえていきたいと思ひますし、子供たちの危険を見逃さず、子供の犯罪加担の抑止力になれるような要因になれるよう日々邁進していきたいと思ひます。